

法話 おばあちゃんの温もり

支え合い認め合う
ことの出来る生き方を
美馬 裕美師
彦根市 純正寺衆徒

いのちの誕生の話

「ひろみちゃんを産む時、お母さんは命がけで、それは大変な思いをして産んでくれたよ」
何度か私にそう話してくれました。近所のおばあちゃんでした。このおばあちゃん、元助産師さんで、私を取り上げてくれた人でもありません。
私の母は心臓が弱く、最初から出産には不安を抱えていたそうです。予想をはるかに超える難産になり、48時間をかけて母は私を産んでくれました。そのため産後の回復にも時間がかかり、1週間前後で退院の予定が、入院生活は約1ヵ月に及んだそうです。
父は兄を連れて毎晩、病院に泊まり、兄は毎明、病院から登校していたことや、健康そのものだった私を先に連れて帰ろうとする父を、「赤ちゃんと離れるお母ちゃんの気持ちも考えてあげて！」と、助産師のおばあちゃんが止めた

ことなど、私が生まれた時の家族の様子を、おばあちゃんとはたくさん話してくれました。とても小柄な人でしたが、しつかり者で優しいそのおばあちゃん、その後の生活にはとても大きな存在でした。
春、お亡くなりになりました。私は僧侶としてご縁をいただきました。前になり、自分が産声を上げる前におばあちゃんのお葬式をつとめさせてもらおうという、何とも言い難い不思議な気持ちで式場に入りました。すると、至る所から同じような会話が聞こえてくるのです。
「私も取り上げてもらったみたい」
「うちは全員お世話になった」
「この地域の人はほとんど、おばあちゃんを取り上げた子ばっかりがうかなあ」
式場の至る所で、自分や自分の大切な人の生まれた時の話を盛り上げていて、別れの悲しみに包まれるはずの空間が、いのちの誕生の話でいっぱいになっていくのです。けれど、その光景に不思議と違和感はありません。議論まならぬまま、少しの間で

はありましたが、おばあちゃん、素敵なその空間にとどまり、お念仏いたしました。

孤独を抱え生きる

「独生独死 独去独来」
ひとり生まれひとり死し
ひとり去りひとり来る。

『無量寿経』の中にある、お釈迦さまのお言葉を思い出した。
私たちは、たったひとりで生まれ、たったひとりで死んでいかなくはなりません。
「私には家族や友人がいる」「楽しい毎日を過ごしている」と言ってみても、心の底の底まで理解し、受け止めてくれている人は本当にいるのでしょうか？みんなでいるのになぜだか寂しい。自分を理解してもらえない苦しみやつらさ、孤独を抱えて生きていく現実が身にしみのお言葉です。
それでも私たちは、自分ひとりで生きてはいけません。生きてゆける乳児など存在しませんが、誰かが抱き上げてくれています。誰かが名前を呼んでくれたから、今の私たちがいるのです。

それぞれ孤独を抱えた者同士が関わり合って生きています。単独で成り立っているいのちなど、一つもないのです。そんな当たり前のことを忘れていた私に、おばあちゃん、いのちは「独生独死独去独来」と、立ち止まらせてくれました。
2000人のいのちを取り上げてきたおばあちゃん、陀仏」と、お念仏に生きたおばあちゃんでもありません。
それでもやはり、ひとり生まれひとり死にゆくいのちには違いありません。しかし、そのいのちは、阿彌陀さまの国に生まれ征くいのちです。まさに今、おばあちゃん、阿彌陀さまに取り上げていただいたのだと思えました。
そのいのちの真実と、逃れることのできない孤独を抱える者同士だからこそ、その関係性の中に育まれる、支え合い認め合うことのできる生き方があるのだと、最後にまた一つ、私に教えてくれました。
私もおばあちゃんのように、このいのちの終える時、次の世に「いのち」の尊さや、その生き方を伝えられるように生きていきたい。そう思わせたいたく、厳しくもあたたかいご縁でした。
(本願寺新報 平令和元年9月1日号掲載)

教誓寺

法要のお知らせ

秋期彼岸会法要

9月23日(月)秋分の日

○法要 午後2時より
ご都合のつく方は、時間
に合わせてお参り下さい。
ご一緒にお経を上げてお勤
めいたしましょう

御彼岸の期間は
9月20日(金)～26日(火)
です。

報恩講法要

報恩講は、浄土真宗門徒
にとつて最も大切な行事で
す。宗祖親鸞聖人が一二六
年十一月二十八日に亡く
なられましたが、この日を
今日の暦に換算すると一月
十六日になります。本日で
は、一月に宗祖のご恩に感
謝する「ご正忌報恩講」が
勤まります。

今年の教誓寺の報恩講は、
十月の第四日曜日にお勤め
いたします。
本年の報恩講も是非お参り
下さい。

記

平成30年10月27日(日)

○法要 午後一時より
○法話

午後一時四〇分頃から

講師 本願寺派布教使

世田谷組 正法寺住職

白川淳敬 師

○時間があれば

腹話術などご披露したいと
考えております。

○報恩講料理(お齋・昼食)の
用意は、午前11時頃から出来
ますので、早めにいらして召
し上がって下さい。

○来年の浄土真宗カレンダー
をお持ち帰り下さい。
○お参りの時には門徒式章を
ご着用下さい。

住職より

前任職の撮った写真

今年、前任職の撮った写真
を使わせて欲しいと、全部で
3回打診がありました。
ひとつ目がNHKからで、
高速道路で覆われてしまう前
の古川の写真を「BSプレミ
アム」の麻布十番特集で使わ
れました。
ふたつ目は、「鉄道ファン」
という雑誌で、昭和42年当時
の西武鉄道の車両の写真(こ
ちらは原稿料をいただきました)
三つ目は、市川市文化ミュー

「ジアムの企画展「永井荷風
と谷崎潤一郎展」(11月2日よ
り)で、永井荷風自身が『墨
東奇譚』に載せるために写真
を撮ったカメラ本体の写真で
す。

前任職の撮りためた写真は、
大半が鉄道写真で、次に戦後
文壇の有名作家や芸術家の方
々の写真、そしてほんの少し
の家族の写真。

どんなに貴重な映像が紛れ
ているやもしれず、文化遺産
を遺棄する愚を犯したくない
ために、全部保管していきま
す。有効活用されるなら何処
かに寄贈出来ないものかと考
えています。

よいところがありましたら
教えて下さい。

教誓寺維持会費

について 再

本年度も維持会費をご納入
下さり有り難うございます。
これからの方も早めにお願
い致します。

浄土真宗本願寺派 圓生山 教誓寺
10810073
東京都港区三田 一十二二十一
〇三(三四五)一二三九
kyouseiji@jsa.so-net.ne.jp



前任職の遺作から 撮影データ不詳 発表済みの箱の中から選びましたので、鉄道雑誌に発表され
たことのある写真だと思ひます、ご存じの方はお教え下さい。
